



Lecture series

<第14回>

日本列島に人類がくらし 始めたのはいつか？

平成28年 4月 18日(月) 15:00～16:15

京都大学附属図書館 1階
ラーニング・コモンズ

(学部生・院生対象)



上峯 篤史 氏

(京都大学白眉センター / 人文科学研究所特定助教)



問合せ先：京都大学附属図書館 利用支援掛
TEL：075-753-2636
e-mail：ref660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

今回のテーマ

私たち現生人類(ホモ・サピエンス)の祖先は約10万年前にアフリカを旅立ち、世界各地に拡散しました。彼らの一派が日本列島に到達したのは、約4万年前と考えられています。それでは現生人類が日本列島にやってきた約4万年前、そこには別の人類、すなわち現生人類以前の人類がいたのでしょうか？現在まで続く現生人類文化の成り立ちを考えるうえで、この問題は極めて重要です。

これを解く鍵は、遺跡から出土する石器の考古学的な研究が握っています。ところが2000年に発覚した旧石器発掘捏造事件が未だに尾を引いており、この分野の研究に取り組む研究者はほとんどいません。捏造事件発覚以後に考古学をはじめた私は、考古学者として、この研究から逃げてはいけないと思い、自分なりに試行錯誤をはじめました。このレクチャーでは、私がこの研究に没頭するにいたった経緯、研究のなかでのエピソードもまじえながら、今、日本列島人類史の始原についてわかっていることをお話します。



石器を観察する



約12万年前の石器
(島根県砂原遺跡)



崖面に貼りついて火山灰を
調べる(長野県)

上峯 篤史 氏 自己紹介

上峯篤史(うえみねあつし):1983年、奈良県生まれ。縄文時代の遺跡が豊富な田舎に育ち、日本列島の歴史に興味をもつ。立命館大学で考古学を学び、京都市嵯峨野の古墳調査に明け暮れる。卒業論文であつかった石器研究を極めようと、同志社大学大学院に進学し、松藤和人先生に師事。『縄文・弥生時代石器研究の技術論的転回』(2012年)で、石器から過去の社会を見通す方法をまとめる。2009年、砂原遺跡(島根県出雲市)との出会いから、私たち現生人類以前の人類の研究に関心をもち、自分なりの研究法を模索中。